

外大東北復興支援隊

TUFS for Tohoku



【About us】

東日本大震災の被害を目の当たりにし、「東北復興のために自分達に何かできることはないのだろうか。」という想いを抱えていた学生4人によって、“外大東北復興支援隊”は4月21日に設立しました。東北が復興するのに何年かかるかわからない今、求められているのは長期的な支援活動です。NGOと協力して、現地から、そして大学から、私たちの活動内容を東京外国語大学学生ならではの方法で発信していきます。

私たちは被災された方々の復興の手助けとなる活動を行うことで、被災された方々を支えると共に、学生にとって学びとなる活動を行うことを目的とし、活動を始めました。

設立メンバー代表：吉村健吾（外国語学部ポルトガル語専攻4年）

副代表：鈴木和（外国語学部フランス語専攻3年）

田中大一（大学院国際協力専攻M2）

顧問：船田クラースンさやか 准教授

現在、大学院生・学部生あわせて約40名の外大生が、宮城県石巻市で活動するNPO法人JEN（緊急支援のための国際NPO）や石巻専修大学の学生ボランティア団体等、他団体のご協力を得て、石巻市でボランティア活動や、当支援隊の顧問を務める船田クラースン先生が代表を務める福島乳幼児妊産婦ニーズ対応プロジェクト <http://fukushimaneeds.blog50.fc2.com> のサポートを行っています。

【代表ポルトガル専攻3年吉村健吾より】

日本中を揺るがした東日本大震災から7ヶ月が経過しました。1000年に一度と言われるほどの大震災を経験した東北の人々の生活も、少しずつ落ち着いて来ました。地域差はあれど、復旧レベルの作業が落ち着き、現在は復興に向かうプロセスを踏んでいます。しかし、解決すべき課題は山積しています。その課題にどのように立ち向かっていくか。どんな些細なことでも、各々ができることを考え、実行することが復興への手助けになります。私共は、これからも東北の復興のため、微力ながら尽力して参ります。



【活動内容】

①コミュニティカフェプロジェクト：宮城県石巻市中屋敷地区で、現地で活動するNPO法人 JEN (<http://www.jen-npo.org/>) の運営するコミュニティカフェ「なかやしきさ」で、地元の方々に情報交換と憩いの場を提供する目的でスタートしました。開始当時は来客がほとんどない状態でしたが、地道な宣伝活動が功を奏したのか、今では多くの方に来ていただけるようになりました。特にお子さんを預けていかれる親御さんが多く、私たちは子供たちの勉強を見たり、共に遊んだり、スイカ割り大会をしたりと親睦を深めています。

②美浦旅館再建プロジェクト：コミュニティカフェと同じく石巻市中屋敷地区で旅館を運営していらっしゃった三浦啓さん (<http://yoidore082.blog32.fc2.com/>) 旅館再建の応援活動です。三浦さんの津波の被害に遭われた旅館を建て直すため、旅館の片付けや修復のお手伝いをさせていただいております。当初は柱しか残っていないような状態だった旅館も、徐々に元の姿を取り戻りつつあります。

③移動図書館プロジェクト：石巻市内の小学校4校を移動図書館用のマイクロバス「みずうみ号」で週一回順番に訪問し、地域の方に本の貸し出しのサービス等を行っている渡辺弘明さん (<http://watachildren.blogspot.com/>) の移動図書館運営のお手伝いや、本の寄贈をさせていただいております。

【活動スケジュール】

夏休み前は毎週土日、7月下旬から8月中（お盆除く）は毎日、9月は土日・祝日に、メンバーを交代しながら石巻遠征を行いました。夏休み中は、学内外での呼びかけに応じ、約35名が現地を訪れて活動いたしました。

夏休み前後それぞれの一日の活動状況の一例を報告いたします。

※東京・石巻間は、土日の活動は車、7月下旬から8月いっぱいにはバスで往復し、石巻市内は車で移動を行っております。

4～7月

○土曜日

5:30 外語大発

12:00 宮城県石巻市着

13:00～ 活動開始

- ・コミュニティカフェ「なかやしきっさ」の運営
(炊き出しお手伝い、お茶の提供など)
- ・美浦旅館修復のお手伝い(泥だしなど)
- ・ニーズ調査(コミュニティカフェ周辺にお住まいの方を対象としたもの)

16:00 活動終了

19:00～ 石巻専修大学にて会議に参加

23:00 就寝



○日曜日

7:00 起床

8:30～ 活動開始

※活動内容は土曜日と同様

17:00 活動終了・帰還

23:30 外語大着・解散

8～9月(活動中日の例)

7:00 起床

8:00 コミュニティカフェ「なかやしきっさ」の清掃

8:30～ 活動開始

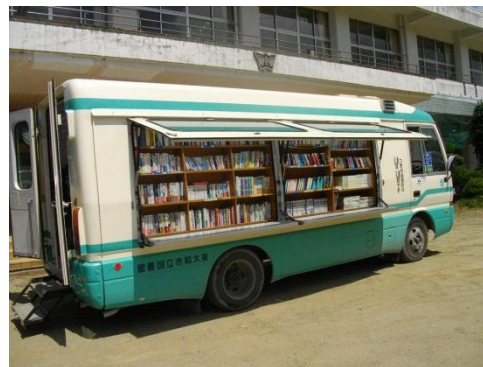
- ・「なかやしきっさ」運営(子供たちの宿題をみる、一緒に遊ぶ、JENさんのイベントの手伝いなど)
- ・美浦旅館修復のお手伝い(床・壁・天井の修復)
- ・移動図書館運営のお手伝い



17:00 活動終了

19:00～ 会議

23:00 就寝



支援隊の夏休みの活動が、宮城県の新報「河北新報」に取り上げられました！！石巻の子供たちの笑顔から、私たち自身も、元気をもらっております。以下、記事を転載させていただきます。

【東京外大生有志 50 人支援 増えた笑顔、保護者らも感謝】

9月8日付 河北新報

平成23年(2011年)9月8日 (木曜日)

学習や遊び相手に 子どもたち大喜び

東京外大生有志50人支援

増えた笑顔 保護者らも感謝

東京外大生有志50人が、石巻市中屋敷地区でボランティア活動を行っている。5月初旬から地区内にあるコミュニティスペースで小中学生に宿題や勉強を教える学習支援を行い、話し相手やゲームを通じた遊び

「勉強のポイントがわかるようになった」と笑みを見せる小学生や、「家でも積極的に勉強に取り組むようになった」と語る母親もあり、予想以上の反響に吉村隊長らも喜んでいる。●勉強の合間にはトランプやカルタ、ウノといったゲームやボール遊び、スイカ割りなどで楽しいひとときを過ごし、コミュニティスペースは和やかな雰囲気にも包まれた。10回以上現地入りしている吉村隊長は「当初は子供たちの笑顔が少なかった」と震災の影響の大きさを振り返る。それでも「親しくなるにつれ、子供たちの笑顔も増え、お兄ちゃん、お姉ちゃん感覚で接してくれるようになった」と感想を語る。●「子供たちへの支援はまだ必要。11月ごろまで活動を続け、その後は地元の大学生らにバトンタッチしたい」と意欲を燃やしている。

「自分たちが小中学生に勉強の仕方など、勉強のポイントを教えるのは、自分たちも楽しんでいる。保護者からも感謝されている。」

「勉強の合間にはトランプやカルタ、ウノといったゲームやボール遊び、スイカ割りなどで楽しいひとときを過ごし、コミュニティスペースは和やかな雰囲気にも包まれた。10回以上現地入りしている吉村隊長は「当初は子供たちの笑顔が少なかった」と震災の影響の大きさを振り返る。それでも「親しくなるにつれ、子供たちの笑顔も増え、お兄ちゃん、お姉ちゃん感覚で接してくれるようになった」と感想を語る。●「子供たちへの支援はまだ必要。11月ごろまで活動を続け、その後は地元の大学生らにバトンタッチしたい」と意欲を燃やしている。」

小学生と一緒にゲームを楽しむ東京外大の女子学生3人
—石巻市中屋敷

●東京外国語大の学生有志らで組織する「外大東北復興支援隊」=吉村健吾隊長(外国語学部ポルトガル語学科3年生)=が石巻市中屋敷地区で子供たち相手のボランティア活動を行っている。5月初旬から地区内にあるコミュニティスペースで小中学生に宿題や勉強を教える学習支援を行い、話し相手やゲームを通じた遊び

相手になるなど心のケアにも貢献。子供たちはもとより、保護者からも感謝されている。●支援隊は福島県いわき市出身の吉村隊長の呼び掛けで発足。現在のメンバーは東北出身の約30人を含む約50人。3人から6人が1チームとなり、交代で平均4、5日間滞在。7月下旬からの夏休みは多い時で1日20人が訪れ、小中学生に宿題や勉強の仕方などを的確にアドバイスした。「勉強のポイントがわかるようになった」と笑みを見せる小学生や、「家でも積極的に勉強に取り組むようになった」と語る母親もあり、予想以上の反響に吉村隊長らも喜んでいる。●勉強の合間にはトランプやカルタ、ウノといったゲームやボール遊び、スイカ割りなどで楽しいひとときを過ごし、コミュニティスペースは和やかな雰囲気にも包まれた。10回以上現地入りしている吉村隊長は「当初は子供たちの笑顔が少なかった」と震災の影響の大きさを振り返る。それでも「親しくなるにつれ、子供たちの笑顔も増え、お兄ちゃん、お姉ちゃん感覚で接してくれるようになった」と感想を語る。●「子供たちへの支援はまだ必要。11月ごろまで活動を続け、その後は地元の大学生らにバトンタッチしたい」と意欲を燃やしている。

(※東北出身が30名と書かれていますが、実際は10名ほどです。)

<活動をふりかえって>

○コミュニティカフェ「なかやしきっさ」(ヒンディー語専攻2年上條美奈子)

私は8月と9月に1回ずつ石巻に行ってきました。滞在中はほとんどの時間を「なかやしきっさ」で過ごしました。1回目に行った時は子供と一緒に遊んでいただけで終わってしまって、正直、力になれたのか不安に思うこともありました。しかし、2回目に行った時、お昼に焼きそばを地域みなさんに振る舞う機会がありました。その時本当にたくさんの方が「なかやしきっさ」に訪れて、私たちの作った焼きそばを嬉しそうに持って行ってくれました。子供たちが運ぶのを手伝い、ご近所みなさんが焼きそばを待つ間におしゃべりしていたのを見て、コミュニティカフェとして「なかやしきっさ」はみなさんに必要とされていると確信しました。それと同時にこの活動に関われていることをとても誇りに思いました。



9月に行ったときはちょうど震災から半年の9/11にあたり、地域みなさん、そして子供たちと一緒に黙祷をしました。先ほどまではしゃいでいた子供たちが黙祷のアナウンスとともに目をつむる横顔がとても印象的で、この子供たちのためにもこれからも末永くこの活動に携わっていきたいと思いました。

○「なかやしきっさ」での活動を通して(フランス語専攻3年鈴木和)

私が初めてコミュニティカフェ「なかやしきっさ」を訪れたゴールデンウィークの時から、もうすぐ半年が経ちます。最初は机も椅子も何もないガランとした場所でしたが、少しずつカフェにもものが増え、近所の方も訪れてくださるようになり、夏休みには子供たちの笑い声が響きわたる明るくとても居心地の良い場所へと変化を遂げました。この変化は、会社の旧事務所をカフェの場所として提供してくださっている中島産業の社長さんと奥さんの和子さんや常駐ボランティアの岡田さん、NPO法人JENの伊藤さん等、多くの方々の努力と温かい人柄のおかげだと思います。

「なかやしきっさ」で私はたくさんの人と出会い、たくさんの思い出を作ることが出来ました。「なかやしきっさ」での出会いや思い出は全て、私にとってかけがえのないとても大切なものです。活動中、子供たちの笑顔や明るい姿にいつも元気をいただいています。子供たちや地域みなさんへの感謝の気持ちを忘れずに、これからも活動を続けていきたいと思いません。



○美浦旅館修復のお手伝い（ドイツ語専攻 2 年和田梨紗子）

三浦さんご夫妻と支援隊が偶然知り合ったのは 6 月頃でしたが、現在まで交流が続いています。私も、泥だしや壁の打ち付け、掃除など何度かお手伝いをさせていただきました。わからないときは丁寧に説明して下さるので、素人ながら作業に打ち込むことができました。三浦さんはとても気さくな方で、休憩時には他ボランティア団体の方々と交え、皆で会話が弾みます。旅館を直しながら、自身もボランティアとしても各地へとびまわっている三浦さんのエネルギーには、いつも圧倒され、自分ならいったい同じことができるだろうかと考えてしまいます。疲れていたり、天候が悪く作業が難しかったりするときには、ただおしゃべりをしてリラックスすることもあります。そんな時間もとても大切に感じられました。修復は多くのボランティアの支えとともに確実に進んでいて、来るたびに部屋が様変わりしています。完成が楽しみ、と安易に口に出すことはできませんが、きっと完成して営業が再開できると信じています。これからも応援し続けていきたいです。



○移動図書館のお手伝い（フランス語専攻 3 年得丸裕加）

私は 8 月下旬に 1 日だけ移動図書館運営のお手伝いさせていただきました。移動図書館のお手伝いを振り返って一番印象に残っているのは、ひたすら元気をいただいたということです。子どもたちは、初めて会った私にも向こうから話しかけてくれて、一緒に本を読んだり遊んだりして楽しい時間を過ごさせてもらいました。大人の方々にも、たくさん労いの言葉をいただきました。特に避難所のおじいさんに「頑張ってください。私たちも頑張るので」と言われたことは、今でもよくふと思い出すほど深く心に残っています。ボランティアとしてお手伝いに行ったはずなのに、元気ばかりいただけてくるという未熟な結果になってしまいましたが、自分にできることは何かを、改めて考える機会をいただきました。同行させてくださった渡辺さんにとっても感謝しています。



<ワークショップへの参加>

9 月 17 日（土）午後 2 時～4 時半「なかやしきっさ」にて、中屋敷地区とその近辺に住む大人の方を対象としたワークショップが NPO 法人 JEN 主催で開催されました。外大支援隊も、地域の方々と JEN スタッフ合わせて 20 名ほどで行われたこのワークショップに参加させていただきました。自己紹介の後グループに分かれ、今心配なことや困っていることを挙げた上で、5 年後の石巻を想像し、一人でもしくはみんなで今できることは何か考えるという流れでした。

現状としては、日用品の買い物の苦勞、住居・金銭問題、防災強化への期待、中屋敷地区の住民が減ってしまう不安などが主に挙げられていました。話し合いが進むにつれて活

発に意見が交わされるようになり、最終的には「町内会を開いて地域で話し合おう」という方向にまとまりました。

石巻に数年住んでいる方と40年以上住み続けている方とでは、少し心持ちの差はあるものの、なんとかもとの暮らしに戻れるよう協力し合いたいという姿勢は同じでした。また、震災以前から民政委員を務め地域の活性化に積極的に取り組んでいた方は、津波のショックから「復興」へと向かうシフトチェンジが早いように感じられました。

近所どうして集まって話し、思いを共有する場として、このようなワークショップは効果的だと思います。



<中屋敷の皆さまより>

「なかやしきっさ」は、中島産業株式会社の事務所スペースをお借りして運営されています。NPO 法人 JEN によって開設された後、炊き出しの拠点となり（～7月中旬）、今に至るまで数多くのボランティア団体が入り出しています。

「なかやしきっさ」での活動に当たりいつも支援隊が大変お世話になっている三名の方に、「現地からの声」として文章を書いていただきました。以下に掲載いたします。

皆様と出会って5ヶ月以上になります。総勢何名の方が「なかやしきっさ」に関わってくださったのでしょうか？子供達は週末が楽しみで待ちきれずにいます。夏休み中は毎日、毎日暑い中、鬼ごっこ、かくれんぼ、サッカー等・・・見ている方が大変な程でした。ほんとうにご苦労様でした。

皆様の優しさと笑顔が子供達の心の栄養となり、これからも頑張る事ができます。感謝です。この様（震災）な事でもなければ皆さまとお会いする事もなかったと思います。皆様との出会いを大切に。

みなさまとの出会いが私の宝物になりました。迷惑でしょうが、これからも宜しくお願い致します。

かずこ

（中島産業の社長夫人である和子さんは、震災当時から現在までたくさんのボランティアや地域の方々と協力し合い、支えてくれる「石巻の母」のような存在です。和子さんをお交えてみんなで話をする事は活動中の楽しみの一つでもあります。）

4月から中屋敷でボランティアをしています。

5月から外大東北支援隊の皆さんと一緒に子供の遊び相手になったり、勉強を教えたり、コミュニティスペース「なかやしきっさ」に来る近所の人とお茶飲みをしたりしてきました。

毎週入れ替わりながら気づけばもう10月です。色々な学生さんが来ました。勉強を教えるのが得意な人、遊び相手が得意な人、泥だし等が得意な人、それぞれ、チームの中でも特色があり、初めての場所で初めて出会う人達と、その場でうちとけてなじんでいく。最初から調子が良かったのではなく、もどかしい期間もあったと思いますが、それでも続けてきた、その成果が今の「なかやしきっさ」には確かにあって、毎週土日には必ず遊びに来てくれる子供達にはもちろん、その日「なかやしきっさ」での出来事を聞く親にも、そしてイベントでやって来たり、他の地域で活動しているボランティアが立ち寄りしたりして、ああ、「なかやしきっさ」は良い場所だな、また行ってみようかな、という楽しみ、未来が生まれているそんな場としての認識。

外大生が来ているなら、子供達を遊びに行かせても良いなという安心感。にぎやかな笑い声にさそわれて、顔を出す近所の人。

求められている活動をしているな、と思います。今から冬になり寒くなって、もっとこういう場が必要になってくると思います。今後もまた「なかやしきっさ」、石巻へ来て笑顔を生んでいってほしいと思っています。

なかやしきっさ駐在員 H23 10/18 岡田和志

(岡田さんは中屋敷に長期滞在し、力仕事から子供達との遊びまであらゆる活動を続けている方です。「なかやしきっさ」が地域のコミュニティを作り出す場となるようにご自身も工夫を重ねながら、支援隊の活動にも長期にわたり協力してくださっています。)

「地域に寄り添い続ける活動を」

はじめまして。NPO法人ジェン石巻事務所の伊藤拓と申します。私は主に、2階避難の方が多い地域コミュニティへの支援を担当しております。

外大東北復興支援隊が活動している地域は、半分以上の住民のかたが他の地域や仮設住宅に避難しています。しかしさまざまな理由によってその地にとどまり、1階の修繕をしながら生活を続けている方もいます。

そのような地域でジェンは「コミュニティ・スペース」(自宅避難生活を送る被災者の方が地域で寄り合ったり、団らんをすることのできるスペース)を運営しており、そのなかで外大復興支援隊の皆さんには、主に子どもの遊び相手や、学習支援などの活動をしていただいています。

避難によって子どもが少なくなってしまった地域、塾やスポーツ教室が被災してしまった地域ですので、もちろん子どもたちのための活動ではあるのですが、それと同時に、元気に遊ぶ子どもたちの姿が地域の方たちを安心させている、という面も強いように思います。子どもたちも外大生が来る土日を楽しみにしており、多いときには30人ほどの子どもたちがやってきます。

活動を始めたのが5月なので、もうすぐ半年になります。毎週の活動に加え、夏休みに

は一日も欠かすことなく常駐し、子どもたち相手の活動を継続してくれました。このことはスペースを運営するジェンとしても非常にありがたいことでした。そしてそのような地道な活動を重ねることで、支援隊の活動が子どもたち、そして地域の方たちに浸透していったのではないのでしょうか。

いま、被災地には多くのボランティア団体が入っていますが、これだけ継続的に、地域との関係を築きながら活動している団体は少ないです。特に、学生の団体としては稀有な存在だと思います。支援隊メンバーがこれまで積み重ねた地道な活動は、地域とのあいだに豊かな関係性を築いています。石巻市では先日ようやくすべての避難所が閉鎖となりましたが、いまだに不安定な生活が続いています。外大復興支援チームにはこれからも、これまで築いた豊かな関係があるからこそ出来る、より地域に寄り添った活動を期待しています。

(現地駐在員である伊藤さんには、「なかやしきっさ」での活動にあたりさまざまなバックアップをしていただいています。)

中島産業の奥さんの勧めに応じて、釜小学校に通う小学二年生の女の子が作文を書いてくれました。原文のまま掲載させていただきます。

「夏休み」

かとうるか

私のひさいしてからの夏休みは、近じょにいっしょにあそぶ友達もいなくてさびしく一人であそんでいました。でもある日、近じょの人に、「るかちゃん、中島さんぎょうで東京外大のお姉さんたちが、子どもたちにおべんきょうを教えるって。」と、言うのを聞きました。そして私はつぎの日にしゅくだいをもって中島さんぎょうに行ってみました。中には知らない子がいっぱいいたけど私が「おはようございます。」と言ってみたらみんな気づいてくれました。はじめにしゅくだいを分からないところを教えてもらいながらやりました。ドラゼミの中で一番むずかしい図形も教えてもらったらいごまでとくことができました。それからアイパッドを教えてもらいながらやりました。マンガも読めるしゲームもできました。はじめはちょっとなれないところもあったけどだんだんおぼえてきました。そのつぎにみんなでウノをしたりジェンガや人生ゲームもやったりして大もりあがりしました。その他にも外でボールあそびや、なわとびをしたりかき氷もたべました。私にとって今年の夏休みは今までで一番楽しい夏休みだったと思います。これからもお姉さんたちといっしょにおべんきょうをしたりあそんだりもしたいです。

(アイパッドは日本雑誌協会さんからの寄付、マンガやゲームは主に他団体からの寄付です。)

<お知らせ>

上述の通り活動を行って参りましたが、現在、10月8日(土)活動中に発生した事故の対応を通常の活動と並行して行っており、今後の「なかやしきっさ」での子供たちを対象とした活動については11月末に確定する予定です。

【協力団体】

福島乳幼児妊産婦ニーズ対応プロジェクト <http://fukushimaneeds.blog50.fc2.com>
特定非営利活動法人ジェン（JEN） <http://www.jen-npo.org/>
WataChildren <http://watachildren.blogspot.com/>

【寄付金ご協力をお願い】

当団体では継続的・長期的な活動を目指しているため、交通費など多くの資金を学生だけで負担するのは厳しい状況にあり、一〇一万円からの寄付金を募っており、皆さまのご協力のもとボランティア活動を行っております。皆さま方に私どもの活動経費のために寄付金のご協力をお願いするのは、大変厚かましいことと存じておりますが、ご寄付をいただくと大変ありがたいです。（一万円以下のご寄付についても、もちろん受け付けております。）

ご協力頂ける方は、当団体連絡先：tufs.tohoku2011@gmail.com までご連絡ください。ご都合のよろしい日時・場所をご指定くだされば、代表の吉村か副代表の鈴木、または他のメンバーがご指定の日時・場所にご寄付をいただきに参ります。

また、当団体の振替口座へ寄付金を振り込んでいただくこともできます。振替口座への振り込みをご希望される方は、振替払込申込書をお届けに伺いますので、上記の連絡先までご都合のよろしい日時・場所をご連絡ください。

振り込み先：振替口座記号番号 00150-8-566431 / 加入者名 外大東北復興支援隊
ATM・銀行からお振り込みされる方は、ゆうちょ銀行 店名：019 / 預金種目：当座 / 口座番号：0566431 とご記入ください。

頂いたご寄付については、大切に管理、使用させていただきます。また本ニュースレターやメールにて、定期的に活動及び会計報告をさせていただきます。何かご意見やご質問がございましたら、上記の連絡先までご連絡ください。

いたらない点多々ありますが、ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。お忙しい中、最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

☆活動メンバー募集中☆

私たち外大東北復興支援隊は、現在活動メンバーを募集しています。石巻市でのボランティア活動の他にも福島トーク&ライブイベントのようなイベントの準備等、被災地へ直接赴かなくても参加できる活動もたくさんあります。

外大東北復興支援隊に参加したい方、興味がある方は毎週水曜日のお昼休みに 106 教室で活動報告会を行っておりますので、ぜひ話を聞きにいらっしゃってください。

質問がある方は弊団体連絡先：tufs.tohoku2011@gmail.com までご連絡ください(^o^)

外大東北復興支援隊ニュースレター 第3号 11月4日発行

編集者：吉村健吾、鈴木和、小早川梨央、玉井草太、和田梨紗子、田邊瑞穂、河北新報

発行所：外大東北復興支援隊（東京都府中市朝日町3-1-1 船田クラークン研究室）

E-mail：tufs.tohoku2011@gmail.com

ホームページ：<http://www.tufs.ac.jp/st/club/tufsfortohoku/index.html>